



## ◆ 素敵な作品に完成 ◆

体験陶芸教室の最終日(11月11日(金))は、素焼きした作品に好きな色の釉薬(ゆうやく)を塗る「色付け」作業を行いました。



写真: 筆を使い、鉢に色を付ける作業

参加者の作品は、電気窯で本焼きし、素敵に出来上がりました。

作品の一部を紹介します。



写真: 出来上がった雪だるまや鉢

次回の体験陶芸教室は、2月頃を予定しています。

## ◇ 郷土資料館の展示紹介 ◇

郷土資料館に展示している「ドンザ」について紹介します。

「ドンザ」は、漁場の仕事着で、地方によっては、サシコ(刺し子)・ツヅレ(綴)・ドンジャとも呼ばれています。

刺し子は、新しい布で繕(つくろ)った(修理)晴れ着で、古くなると普段着や仕事着として着用されていました。

えりも町では、「潮風とともに」の中に、「6年生(昭和14年前後)くらいまで着物を着ており、その当時の親は、何をするときにも“刺し子”を着ていた。刺し子は丈夫だった」とあります。

刺し子が傷むと何度も“継(つぎ)” (修理)をして使用していました。



写真: 資料館、くらしの道具に展示している刺子

## 町指定文化財「當世武大明神」

「當世武大明神(とせっぷだいみょうじん)」は、えりも町が江戸時代からコンブ生産地として発展してきた歴史を物語る貴重なもので、平成14年(2002年)3月20日に町指定文化財第6号に指定されました。

この石碑は、トセツプ(えりも町字庶野黄金道路入口付近)のコンブ干場があり、東側は日高山脈が太平洋に沈み断崖(黄金道路)となっています。

そのため、強い西風が吹いても、風が弱く、船舶が風待ちができる小さな入江になっています。

江戸時代、本州と蝦夷地を結ぶ北前船も停泊していたと推測できます。

慶応二年(1866年)に建立され、碑文には、正面に「當世武大明神」、右側に「慶応二年丙虎歳」、左側に「願主 請負人 杵(すぎ)浦嘉七豊明、支配人 紋蔵、惣番人中」と刻まれています。

願主の杵(すぎ)浦嘉七豊明(幌泉場所の場所請負人二代目杉浦嘉七)は、幌泉場所の繁栄と航海の安全を祈願し、

この「當世武大明神」を建立奉納したと考えられます。



写真：修復前の「當世武大明神」



写真：修復後の「當世武大明神」

12/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
○	○	○	○	○	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日	○	○	○	○

18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1/1	2	3
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
○	○	休館日	○	○	○	○	○	○	休館日	○	○	年末年始休館				

12月～1月の  
開館カレンダー